

J A くま青壮年部活動報告

熊本県のJAくま青壮年部は、現在9支部448人で活動しており、管内では水稲・野菜・果樹・施設園芸・畜産など、多種多様な農畜産物を生産しています。

主な活動は、農政活動をはじめ、食育活動、様々な研修会を通じた生産・経営基盤の確立、JA役員・女性部との意見交換会等を通じたJA運営への積極的な参加・参画を行っています。

「食」と「農」の大切さを伝える食育活動



▲木上小学校で苗づくりを指導する青壮年部

管内では、各支部で園児や小学生を対象に田植えや稲刈り、野菜などを育てる農業体験活動を行っています。次世代を担う子ども達に作物ができるまでの苦労や収穫の喜びなど、農業に対

する理解を深めてもらい、食べ物を大切にもらうことが目的です。子ども達は悪戦苦闘しながらも笑顔で一生懸命に取り組んでくれます。引き続き、「食」と「農」の大切さを伝えると同時に、農業のやりがいも伝えていきたいと考えています。

「盟友の主張」で相互研鑽を図る

青壮年部では、農業経営や青壮年部活動、将来に向けての希望・意見・提言などを発表する「盟友の主張」発表大会の地区予選会を毎年開いています。農業の担い手として、将来を見通した自立農業経営を確立し、明るく豊かな



▲熊本県大会の盟友の主張発表大会で優秀賞に輝いたあさぎり支部の中原大志さん

な地域社会づくりを目指します。また、活発な意見を出し合いながら相互研鑽を行い、青壮年部組織の更なる発展を図っています。

JA運営に参加・参画

青壮年部・女性部は、毎年JA常勤役員と意見交換会を開いています。青年農業者の立場から意見や要望を伝えることで、球磨地域全体の農業振興と活性化に努めています。



▲JA常勤役員と意見を交わす青壮年部・女性部

農業機械整備講習会



▲刈払機のメカニズムの説明を熱心に聞く青壮年部盟友

多良木支部ではJA農機センターの協力を仰ぎ、農業機械整備会でセルフメンテナンスを学んでいます。機械の長寿命化により、修繕にかかるコスト削減を図り、農業経営に活かしています。

整備会では、同センター職員が修理依頼の多い事例の紹介とともに、メーカーの方が実際に様々な機械を分解し、その工程を見ることでメカニズムも学べ、日頃の農作業時に役立てています。